

西多摩医師会報

第211号 平成2年7月



ラウターブルネンの溪谷

目 次

	頁		頁
1. 平成2年度臨時総会開催	2	8. 文芸随筆その他諸事百般	
2. 学術		文月繰言 小泉新策	13
開業医における腹部		映画『あげまん』を見て	
超音波検査の検討 玉木一弘	3	道又正達	13
3. 「かかりつけ」を持つ人の		9. 生涯現役 坂本 保	14
調査成績について 石井好明	6	10. ブロックだより	15
4. 理事会報告 広報部	8	11. クラブ紹介 絵画部	15
5. 第17回東京都医師会学校医会		12. 医師会日誌	16
並びに定時総会 学校医部	9	13. 表紙の言葉	18
6. 三多摩地区広報研究会 広報部	10	14. あとがきにかえて	19
7. 正副会長経験者との懇談会 田代 洋	11		

平成2年度 臨時総会開催

平成2年度臨時総会は、5月23日(水)午後7時30分より西多摩医師会館において開催された。林総務部長の司会により、議長団が登壇、資格審査(委任状を含む206名が出席、会員総数301名)の後、後藤議長が開会を宣言した。(議事録署名人として、斉藤信幸会員、玉木一弘会員を指名)。

西村会長挨拶

診察でお疲れのところ夜分臨時総会のために出席賜わりまして有難うございました。本日は平成元年度の決算総会でございますので、経理の方から色んな説明がございますが充分聞いていただきたいと思っております。それから先般の総会で、今年度の抱負を述べましたが、ここで改めてもう一度お話をさせていただきます。

定款改正の問題について昨年度山田先生に定款見直の検討委員会委員長をお願いいたしまして或答申をいただきましたが(見直しは)必要だが、運用面で考慮すべき点があるとのお話をいただきましたが、保険のしくみも変わって来ておりますし、医療費の配分の問題もあり、我々の生の声を都医又は日医に上達して行って我々のための日本医師会を作る。そのためには意見が反映する様地元の医師会を充実する必要がある、最近自治体単位の仕事が多いため理事会でも地区医師会を充実せよとの意見が出て来ている。この様な点をふまえて、西多摩医師会のあり方、又地区医師会のあり方を討議していきたい。そのためには現在の定款では若干不備があると考えられますので、定款改正の委員会の設置を今年度の主要政策の一つにしていきたいと考えております。

医師会活動を活発にせよというご意見御指摘がありますので、各部の理事の先生方にごんばっていただき会員のために尽し、地区住民のために十分な医師会活動を行っていききたいと思っております。

議題

1 審議事項



- (1) 平成元年度一般会計収支計算につき承認を求める件 大嶽理事
- (2) 平成元年度特別会計収支計算につき承認を求める件 大嶽理事
- (3) 監事監査報告(一般会計、特別会計) 近藤監事

以上の報告の後、出席会員より次の発言があった。

山田正哉先生：繰越し金が2,300万も残るといふことは、例えば旅費が安いのではないかと、又会長交際費が25～6年前と同じ50万では少ない、倍ぐらいでも良いのでは、さらに副会長の交際費もあっても良いと思う。食事代も安いと思うが、これら補正予算を組んでいただいたらどうだろうか。

大嶽理事：11月8日理事会で交通費について管内は2,000円より3,000円に、管外は6,000円に、又都内講習会は12,000円と若干の値上げをさせていただいております。

西村会長：大変有難いご発言ですが、西多摩には会員に面倒をおかけしないという伝統があり極力(出費は)抑えていきたい。ただ会

長、副会長が都内の会合に出席する場合、自分で車を運転して事故を起す事もあり、タクシーの利用を認めていただきたいと思います。

以上の討論の後 (1)(2)の議案については、出席者全員の承認を得た。

次いで松原副会長の閉会の挨拶があり、平成2年度西多摩医師会臨時総会は終了し、引き続き下記の総会が開催された。

◎西多摩医師会互助会平成元年度収支計算書報告
— 大嶽理事 —
— 承認 —

◎西多摩医師政治連盟、東京都医師政治連盟
西多摩支部会計平成元年度収支計算書報告
— 大嶽理事 —
— 承認 —

◎西多摩乳児健康診査医会
平成元年度決算の承認を求める件
— 坂本医会会長 —
— 承認 —

学術

開業医における腹部超音波検査の検討

Keyword 腹部超音波検査 病診連携

福生市 玉木 一弘

〔はじめに〕

最近の超音波診断装置の進歩は著しく、解像力の優れた小型で比較的安価な装置が供給されるようになり、その簡便、無侵襲かつリアルタイムな特徴からも、一般開業医が、手軽に施行出来る画像診断法として普及しつつあり、第二の聴診器として一次医療の現場に資するところは大きい。一般開業医が、より積極的に、疾患の一次スクリーニングを担い得るといふ点においても、病診連携における、高次医療機関との役割分担の効率化に利するものと思われる。そこで今回は、最近2年間に、当院において実施した、腹部超音波検査について検討してみた。

〔対象〕

対象は、昭和62年4月から平成1年4月迄の2年間に、当院の内科系一般外来診療で実施した腹部超音波検査992例の内、同一被検者で複数回に渡って観察した場合の、二回目以降の検査114例を除外した878例を対象とした。また対象臓器は肝、胆、膵、脾、腎とし、筆者の専門外である子宮及び付属器、乳腺、膀胱、前立腺等や診断精度の低い消化管疾患については、今回の検討対象からは除外

した。

〔方法〕

検査はすべて筆者が実施し、装置は実時間表示電子リニアスキャン(東芝SAL-77B)で、探触子は3.5MHzのコンベックス型を使用した。検査前処置は胆嚢収縮、腸管ガスや腸管運動の影響を除くため、原則として前日の夕食後禁飲食としたのみで、緩下剤の内服や膀胱描出の為に脱気水の使用等は行っていない。胆嚢の日内変動も考慮して、検査は当日の午前中に実施したが、一部は緊急性に応じて、条件にこだわらず施行したのものも含んでいる。探触子による走査は、左右肋間、肋弓下、正中縦横断、左右斜断、右縦断の一般的9断面については必ず観察し、上記5臓器のほか総胆管、膵管、腹部大動脈、腹部リンパ節の観察も描出可能な限り行った。

〔結果と考察〕

被検者は15才から92才まで、平均46.0±15才で、男性485例、女性393例であった。

1) 疾患別分類結果について

検査結果の疾患別分類と件数を表1に示す。同一被検者で複数の疾患を認める場合は、疾患別にそれぞれ加算したため、対象

件数と被検者数は一致していない。

〔悪性疾患〕

悪性疾患は胆嚢癌1例、胆管癌1例、原発性胆嚢4例、膵癌1例、胃癌の転移性腹部リンパ節腫大2例の、9例であった。9例全て高次医療機関で、確定診断を得ている。原発

性肝癌は1例が切除、3例が経動脈的加療にて存命中であるが、他の悪性疾患は全て手術に致ったが、予後不良であった。原発性肝癌については、HBs抗原陽性例や肝硬変例等ハイリスク群の超音波定期観察により早期発見が一般開業医でも十分可能であると思われる。

表1 腹部超音波結果の疾患別分類と件数 ()内は総被検者 878例に対する%

異常所見なし		380 (43.3)	
胆嚢疾患	胆嚢結石	56 (6.4)	(非炎症性胆砂を含む)
	急性胆嚢炎	8 (0.9)	
	慢性胆嚢炎	4 (0.5)	(過形成、腺腫、コ系、分類不能等)
	アミオトシス	2 (0.2)	
	胆嚢ポリープ	40 (4.6)	
	胆嚢癌	1 (0.1)	
胆管疾患	総胆管結石	2 (0.2)	(先天性、原疾患不明のもの)
	肝内結石	20 (2.3)	
	胆管癌	1 (0.1)	
	総胆管拡張	8 (0.9)	
	胆道気腫	2 (0.2)	
肝疾患	原発性肝癌	4 (0.5)	(ウイルス、アルコール性、原因不明のもの) (不規則脂肪肝13例を含む)
	肝血管腫	13 (1.5)	
	肝嚢胞	33 (3.6)	
	急性肝炎	4 (0.5)	
	慢性肝疾患	74 (8.4)	
	肝硬変 脂肪肝	14 (1.6) 125 (14.2)	
膵疾患	膵癌	1 (0.1)	(原疾患不明のもの)
	急性膵炎	5 (0.6)	
	慢性膵炎	8 (0.9)	
	膵嚢胞	2 (0.2)	
	膵管拡張	5 (0.6)	
腎疾患	腎嚢胞	62 (7.1)	(尿管結石を含む) (水腎症を含む) (腫瘍等との鑑別を要したもの) (腎硬化症、慢性腎不全等)
	腎結石	42 (4.8)	
	腎う拡張	21 (2.4)	
	腎変形	25 (2.8)	
	萎縮腎	2 (0.2)	
その他	脾腫	3 (0.3)	(肝硬変等に由来しないもの) (いずれも転移性)
	リンパ節腫大	2 (0.2)	
	腹部大動脈瘤	3 (0.3)	

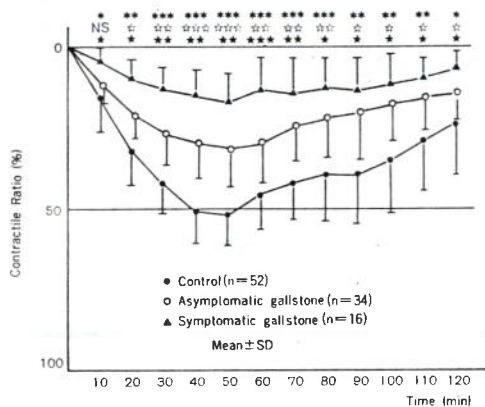
〔胆嚢疾患〕

胆嚢ポリープが40例認められたが、ほとんどが関連ある臨床所見に乏しく、偶然発見例である。大きさ、形状より定期経過観察を施行しているが増大して手術に致った例は現時

点では1例で、胆嚢癌と鑑別困難な腺腫性ポリープとコレステロールポリープの混在例であった。良性ポリープを発見したことにより、かえって被検者に心理的負担をかける結果にならぬよう、十分配慮しつつ、必要例を適切

に選択して経過観察を行えば、胆嚢癌の早期発見を成し得ると思われる。胆嚢結石症は2例が薬物溶解、2例が衝撃波破碎、6例が外科手術にて予後良好であり、その他は経過観察中である。胆嚢結石については、結石の大きさや性状、胆嚢壁の状態等から、また可能な場合は卵黄負荷による胆嚢収縮力の超音波的評価を行い、胆石溶解剤、衝撃波破碎、手術等の適応決定や予後判断を行っている。胆嚢造影等のわずらわしさはなく、高次医療機関に加療を依頼するかどうかについて十分な根拠を得られていると思う。表2は筆者が出身教室在籍中に得た胆嚢結石症の胆嚢収縮能についての知見であるが、有症状胆石で卵黄負荷後40分から50分の収縮率が20%以下の例については、溶解や破碎の適応はまず無いと考えている。

表 2



Gallbladder contraction curves after ingestion of dried-egg meal in patients with asymptomatic gallstone, symptomatic gallstone and controls.

〔胆管疾患〕

総胆管結石の発見が少ないのは、もともと超音波検査が消化管ガス等のさまたげにより、不得手な領域である為と思われるが、膵頭部まで観察出来ない原疾患不明の総胆管拡張例については、積極的にERCP等を高次医療機関に依頼している。8例中1例が総胆管結石、1例が乳頭部癌であった。肝内結石が予想外に多かったが、1例の疼痛発作以外は軽度の肝機能異常を散見する程度で予後不良の例なく経過観察中である。

〔肝疾患〕

原発性肝癌については先に触れた通りだが、肝癌との鑑別でしばしば困難なのは、モザイク様の大きな肝血管腫と不規則脂肪肝である。ほとんどがCTのみにて鑑別可能だが、血管腫の2例についてのみ血管造影を必要とした。慢性肝炎、急性肝炎、脂肪肝等、典型的な肝硬変以外の、びまん性肝疾患については超音波でその原因まで確定出来るわけでは無いが、肝の辺縁や表面性状、腫大の程度、内部エコーや脈管性状等の超音波所見と他の検査所見とを合わせて活用すれば、肝生検のままならぬ慢性肝機能障害の外來管理には、十分な指針が得られる。γGTPやGOT,GPT等の軽度異常が引き継づく例などには、脂肪肝か否か、胆道疾患が無いかどうかだけでも判断出来ることは、開業医にとってはこのうえない情報である。急性肝炎の少ない理由は酵素値の高さに驚いて、直ちに高次医療機関にお願いするからである。脂肪肝例がかなり多いが、最近の超音波集団検診等の文献値と矛盾せず、グルメブームの反映で、オーバーリーディングでは無いと思っている。

〔膵疾患〕

膵で常に問題になるのは、超音波的描出率である。腸管ガス、手術癒着、脂肪等の影響で、尾部まですべて観察できる描出率は前述の観察条件下で36.4%で文献値と矛盾しなかったが、尾部膵癌の早期発見は困難としても、頭体部の状態や体部膵管の拡張の有無が臨床判断の助けとなることは多かった。但し急性膵炎など、緊急性のあるほど消化管ガス増え、観察しにくい傾向があり注意を要した。

〔腎疾患〕

腎結石は音響陰影に乏しい小さなストロングエコーは、集計上無視したが、そのような例でも、尿管結石発作を来たす例も経験され、判断に迷うことが多い。被検者には存在の可能性は告げるようにしている。腎変形として分類したのは、しばしば腫瘍との鑑別を要して、泌尿器科の先生をわずらわした経験を反省しての意味もある。先天的な変形と思われるが、一度専門医のご意見を伺いたいと思っている。この25例からは悪性疾患の発見はなかった。

表 3 肝機能及び尿一般検査と超音波有所見率

	肝機能検査異常あり	肝機能検査異常なし
肝胆膵の超音波有所見率	66.8 %	33.1 %
	尿一般検査異常あり	尿一般検査異常なし
腎の超音波有所見率	27.1 %	9.8 %

〔その他〕

腹部大動脈瘤の1例は解離性で人工血管置換を行い現在予後良好である。

2) 肝機能及び尿一般検査と超音波有所見率結果は表3に示す通りである。最近老健法検診、職域検診、人間ドック等の普及で肝機能異常や検尿異常を指摘されて来院する例が多いので、上記対象例における肝機能異常と肝胆膵疾患、尿一般検査異常と腎疾患の関連を見た。肝機能異常はZTT, GOT, GPT, ALP, LDH, γ GTP, の内、いずれかひとつでも異常値のとき、尿一般検査異常は潜血反応陽性のときとした。やや荒い対象集約だがかなり高率な有所見率を得た。検査異常の無い例でも、肝胆膵疾患33.1%、腎疾患9.8%の値はオーバーリーディングか否か、今後の参考としたい。

〔まとめ〕

一般開業医の内科系一般外来診療で施行した878例の腹部超音波検査について検討した。9例の悪性疾患を認め4例の肝細胞癌の延命経験をえた。その他、検査の実施理由に係わらず、肝、胆、膵、脾、腎の5臓器スクリーニングを行い、様々な疾患の一次医療現場でのスクリーニングが可能であった。特に胆嚢結石、胆嚢ポリープ、総胆管拡張、肝血管腫、慢性肝疾患、脂肪肝、腎結石、腹部大動脈瘤等については、診断、加療、管理に、高次医療機関の協力の下、有用な結果と経験が得られた。今後も一次医療機関の役割に応じた超音波スクリーニングを行っていきたいと考えている。

稿を終わるに臨み、平素より御協力、御指導賜る諸先生に心から感謝申し上げます。

「かかりつけ」を持つ人の調査成績について

(青梅市健康センター人間ドック第4報)

昭和63年度の青梅市健康センター人間ドック(Aコース)の成績をまとめましたところ、例年通り、青梅市の全地区から1,484名、男性838名、女性646名(初回受診者は54%)が受診されました。その年令、性別、職業、受診の動機、家族歴、既往歴、睡眠時間、嗜好品、自覚症状および検査成績のパターン(すべての検査成績が正常範囲という人はせいぜい10%)は、ドック開設以来4年間、大差はありませんでした(当然のことかも知れませんが)。

依然として30才代の男性に、疲れ易い・だるいという訴えの多いこと(23%)が目立ち、女性の16%は臍部の左に圧痛があり、肥満度20以上の「太り過ぎ」の女性は、全体では31%(男性は16%)ですから、40才代から男性の2倍以上(最高は60才代の52%)に増え、60才以上では、正常体重以下の女性は殆んど居ません。また、眼底動脈硬化の全くない人(S-0)は、30才代では殆んど100%ですが、40才代90%・50才代50%・60才代10%と急に減って、70才代では殆んど0になってい

ます。

胃痛は、文献通り 1,000 人に 1 人か 2 人の割合で発見されていますが、111 mg/dl 以上の血糖上昇者は 3% しかなく（尿糖陽性者は 0.7%）、230 mg/dl 以上の高コレステロール血症は 13%、161 mg/dl 以上の高中性脂肪血症は 17%、7 mg/dl 以上の高尿酸血症は 8%（男性のみでは 13%）と、全国集計より耐糖能異常が少なく、肥満・高脂血・高尿酸血は多いのではないかと、という成績でした。

ただし、「かかりつけ」の医療機関についての調査成績は以前と異なり、表 1 の如くでした。全体では 92% の人が「かかりつけ」の医療機関を持っているということになり、昭和 60 年度の 43%・61 年度の 52%・62 年度の 66% と較べて、余りに高すぎるのではないかと考えられます。（男女差・年代差も明らかではありません）。

表 1 「かかりつけ」の医療機関を持つ人の割合（昭和 63 年度）

年令	男	女	計
30才～	87%	91	89
40～	88	91	90
50～	91	95	93
60～	98	93	96
70～	100	94	98
80～	($\frac{3}{3}$)	($\frac{2}{2}$)	($\frac{5}{5}$)
計	91	95	92

差の検定 $X^2_s = 1,703$

〔註〕() 内は実数（以下同じ）

60・61 年度は、受診者の記載そのものを集計していました。62 年度からは、「ホームドクター」を持つ割合を調べようと、問診の時、家族として「かかりつけ」を決めているかお尋ねすることにしたのですが（そのため、62 年度は以前より高くなったものと解釈していました）、次第に尋ね方がエスカレートして、本人または家族が今迄にかかったことのある医療機関まで聞き出してしまい、このように高率な数字が出たのではないかと反省しています。夫婦・親子で受診される場合も少なくないので、この割合が即ちホームドクターを

持つ世帯の割合とは言えないようです。

そこで、平成元年度は始めに帰って、受診者の記入された答そのものを集計しましたところ（無記入は「かかりつけ」なし、とみなしました）、表 2 の如くなりました。

表 2 「かかりつけ」の医療機関を持つ人の割合（平成元年度）

年令	男	女	計
30才～	21%	49	32
40～	35	42	38
50～	47	59	53
60～	62	72	66
70～	73	89	78
80～	($\frac{2}{2}$)	($\frac{3}{3}$)	($\frac{5}{5}$)
計	42	54	47

差の検定 $X^2_s = 23,923$

表 3 「かかりつけ」の医療機関を持つ人の割合（昭和 61 年度）

年令	男	女	計
30才～	21%	45	30
40～	39	51	45
50～	58	64	62
60～	68	70	69
70～	71	89	79
80～	($\frac{0}{2}$)	($\frac{1}{4}$)	($\frac{1}{6}$)
計	45	59	52

差の検定 $X^2_s = 25,842$

これは、表 3 の昭和 61 年度の成績と殆んど一致しています。「かかりつけ」を持つ人は全年代、女性の方が多く、年長者は多いという傾向は、（昭和 63 年度を除き）以前と変わりませんでした。

また、表 4 の如く、「かかりつけ」の医療機関の中で、公的病院の占める割合が $\frac{1}{5}$ であることも、（昭和 63 年度を除いて）以前と変わりありませんでした。（昭和 60 年度 $\frac{1}{4}$ ・61 年度 $\frac{1}{5}$ ・62 年度 $\frac{1}{5}$ ・63 年度 $\frac{1}{3}$ ）。男女別・年代別に比較しても、明らかな傾向は見られませんでした。「大病院指向」には、性差・年代

差はないのでしょうか。

表4 「かかりつけ」の医療機関の中で、公的病院の占める割合(平成元年度)

年齢	男	女	計
30才~	18% ($\frac{7}{38}$)	29% ($\frac{16}{56}$)	24%
40 ~	20 ($\frac{23}{117}$)	21 ($\frac{21}{98}$)	20
50 ~	19 ($\frac{18}{96}$)	20 ($\frac{24}{120}$)	19
60 ~	31 ($\frac{28}{94}$)	25 ($\frac{18}{73}$)	28
70 ~	17 ($\frac{6}{36}$)	24 ($\frac{4}{17}$)	19
80 ~	50 ($\frac{1}{2}$)	0 ($\frac{0}{3}$)	20
計	21 ($\frac{81}{383}$)	23 ($\frac{83}{367}$)	22
差の検定	$X^2_s = 0, 236$		

なお、「かかりつけ」として私的医療機関と公的病院の両方を答えた人が38人(男性14人・女性24人)ありましたので、私的医療機関を「かかりつけ」にしている人は83%(男性83%・女性84%)になります。

従って、青梅市では、半数の人が「かかりつけ」の医療機関を決めており、その8割が私的医療機関であり、2割が公的病院であり、その割合が過去5年間に増えつつあるという傾向は見られないのではないかと思います。

ただし、この推測は、ドックを受診したというように、健康に関心の高い人の調査にもとづいているので、健康に無関心な人を含む実態の数字は、これより低いと思われます。

以上、「かかりつけ」調査の失敗談を報告し、お詫びして訂正いたします。

(青梅市健康センター長 石井好明)

12345678901234567890123456789012345678901234567890123456789012345678901234567890

理事会報告

5月定例理事会

平成2年5月22日(火)7:30 P.M

西多摩医師会館講堂

議事録署名人 { 野村理事
芥川理事

1 報告事項

1) 都医地区医師会会長協議会報告

西村会長

都医からの伝達事項

(1) 第199回(臨時)代議員会結果について

日医代議員及び都の役員について

(2) 日医スポーツ医学認定医制度について

講習会が8月24, 25日、9月7, 8日に開催される。割当9名

(3) 東京都衛生局との定例連絡会について

今年度の主要事業の概要が示された。

(4) 都立高等学校医地域ブロック連絡協議会の開催について

西北多摩ブロックは6月16日(土)

三鷹市医師会で開催

(5) 在宅医療の届け出について

届出様式及び添付書類が回覧された。

2) 協議事項なし

3) 地区医師会からの報告

城北ブロックより看護婦不足解消方法を考慮して欲しい点、保険事務請求の簡素化、医療調査表、定款に基いた会計監査について報告があった。

4) その他

(1) 東京の精神衛生第10巻1号について

(2) 東京都衛生局との(多摩地区がんセンターについて)話合いの報告

松原副会長

精密検査は市町村集検体制を壊さない様に又、運営委員会には西多摩より委員の選出を要望。

(3) 医療協報告

松原副会長

5月2日開かれた医療協で委員長は医師会側から選出ということで、松原副会長に決まる。又規約が無いためたき台を次回までに作る。また定例の会合(4月及び11月)年2回開催する

三多摩地区広報研究会 (要旨)

当番・・・多摩市医師会
()内テーマ提出医師会名

出欠表

医師会名	役 職 名	氏 名
東京都医師会	広報担当理事	杉浦 稔
"	"	牧 政明
"	広報委員長	近藤 忠雄
"	広報副委員長	牛尾 博昭
西多摩	広報担当理事	道又 正達
北多摩	"	野上 秀夫
"	経理担当理事	知念 昭男
調布市	"	小林 肇
武蔵野市	広報・調査部理事	真弓 定夫
三鷹市	広報担当理事	川久保 亮
府中市	"	笠間 雪雄
町田市	広報部長	宮本 東生
田無市	広報担当理事	小野 和郎
東久留米市	広報部理事	有川 正尋
保谷市	広報担当理事	田中 和子
稲城市	"	簡野 芳憲
八王子市	"	坂本 俊雄
日野市	"	横溝 圭治
立川市	欠 席	
小平市	広報部委員	白井 貞子
東村山市	欠 席	
国分寺市	広報担当理事	日向 正
小金井市	経理広報担当理事	宮本 誠
国立市	欠 席	
武蔵村山市	広報担当理事	奥野 幸雄
昭島市	欠 席	
東大和市	広報福祉部理事	徳永 光雄
狛江市	広報担当理事	保坂 孝二
清瀬市	欠 席	
多摩市	副 会 長	中村 弘夫
"	広報担当理事	高田 幸枝
"	広報部副部長	藤井 達磨
"	広報部委員	白井大一郎

1) 各地医師会における医政連に関する広報について(北多摩医師会)

会員個々の問題意識、地域事情など複雑な要素もあるが、医政連ニュースは昨年11月に第1報を、そして6月以降に第2報を末端会員の理解を得るよう情報を提供する予定と都医広報より解答

2) 会員作品展について(小平医師会)

結論的には、医師会のPR大いに結構だが、作者や作品のマンネリ化も注意すれば良い。

3) 会員アンケート(医師会報は役にたっているか)(多摩医師会)

多摩市医師会報 アンケート結果報告	
平成2年4月24日 広報部	
アンケート配布	105(全員) 回答 58 回収率 55.2%
	A会員 57名 B会員 38名
1. 多摩市医師会報について	
・読んでいる	57人 98.3%
・読んでいない	1人 1.7%
<u>読んでいると解答された方</u>	
・役に立っている	37人 64.9%
・普通	20人 35.1%
<u>読んでいないと回答された方</u>	
・興味ある内容なし	1人
2. 誌面づくりの提案(こうした方がよい)	別 紙
3. 日本医師会雑誌	
・読んでいる	38人 65.5%
・読んでいない	20人 34.5%
4. 東京都医師会雑誌	
・読んでいる	38人 65.5%
・読んでいない	20人 34.5%
5. 追加調査	回答者 32人
都医ニュース	・読んでいる 27人 84.4%
	・読んでいない 5人 15.6%
日医ニュース	・読んでいる 26人 81.25%
	・読んでいない 6人 18.75%
サンヘルス	・読んでいる 20人 62.5%
	・読んでいない 12人 37.5%

以上の結果を鵜呑みにはできないが、或る程度の参考になるのではないかと

・・・・・・会場の雰囲気

4) 広報委員会の今後のあり方について

(田無医師会)

会の時間帯、回数、余り新鮮なテーマもないとの事柄について全員の意見調整を行ったところ時間は今迄でよい、回数も勉強になるので多い方がよい。一回は研究会、もう一回は連絡会 一同賛意あり

印象に残ったスピーチ

上意下達ばかりでは、今や広報は無理ではないか・・・知念先生

編集はパターンを決めると楽なようだ。小さな医師会なら頭に執行部の方針、なかに何か挟んで提言そしてあとがき

・・・杉浦先生

大体広報なんぞやる先生はオシャレが好きなんだ、こう大勢では困る二分三分の必要？

・・・真弓先生

文章の表現方法に適切でない所が多々ありと思いますが、いつものことですのでお許し下さい 広報担当 みちまた



『正副会長経験者との懇談会』

6月12日(火)福生市の「幸楽園」において、正副会長経験者と現執行部役員の懇談会が行われた。これは、執行部役員として永い間活躍された諸先輩をお招きして、貴重な経験談や医師会運営上での助言、提言をお聞きし、以って執行部を御指導頂く目的から、西村会長になって始められた会合で、今回は3回目に該る。

当日は、会長経験者の小泉先生、副会長経験者の坂本、山田、後藤、米山、大塚先生が出席された。会は林総務部長の司会で始まり、西村会長が挨拶に立たれ、鄧小平の『古井戸を掘った人を忘れるな』という言葉を用いて、今日西多摩医師会が発展したのは、ここに居られる諸先生方の礎の御蔭であり、古い先生の意見を聞きながら、新しい我々がより良い医師会を作り、西多摩地域住民に貢献したいと話された。

続いて招待された側を代表して小泉先生が挨拶され、現在の医師会の置かれている立場は、医療のみに係ってはいけなない、例えば、政府国会での医師税制特別措置法5千万枠撤廃の根拠が明示されていない問題、高地価の波による都内開業医減少の問題、輸入食糧の残留農薬、防腐剤汚染の問題、若年、青壮年の過労死、病死の増加、女性一人当り出生率の減少の問題等々、今こそ医師会は専門集団として市町村行政府の監督指導を行わな

ければならない立場ではないか、と力説された。

その後最長老の坂本先生の乾杯音頭に続き、役員の自己紹介、職務紹介があり、副会長経験者よりの話に移った。山田先生からは、明治45年設立の西多摩医師会が平成4年に80周年を迎えるので、記念誌、行事の準備をとの注文があり、米山先生からは、定款改正に触れて、武見会長亡き後の厚生省主導型医療行政が、各自治体単位に権限を移譲しつつある現状に対応して、医師会も各自治体医師会を強固にする様な、思いきった定款改正を考えるべきと注文をされた。後藤先生は古き良き時代の執行部懐旧談、大塚先生からは、西村会長への柔軟性のある医師会運営をとの注文、等が出された。

その後西村会長より会の現況報告があり、三多摩代議員連絡会を作った経緯、更には都医、日医に現場の声をストレートに伝える会にしたい等との希望が述べられたりして、有意義な懇談が続き、役員としても得る所大であった。

文責 田代 洋

出席者 小泉新策先生 坂本 保先生
山田正哉先生 米山秀雄先生
後藤 伸先生 大塚 渉先生

(以上正副会長経験者)

他正副現会長、役員 総計 22名



懇談会スナップ



文芸隨筆その他諸事百般

「文月線言」

小泉新策

さみだるる 季節に入りて 漸く
 晴れ間 えらみて 立菱咲く
 降りつづく 雨を喜び 賑ぎにぎし
 色優りゆく 紫陽の花
 長梅雨の 予告はあれど 渺な雨
 長く続くか さだかならねど
 今夏は エルニーニョ 現象現はると
 異常高温化 覚悟なさねば
 念願の「ナホトカ」への 交流かなえられ
 居留民の 笑顔 明るく映る
 シベリアの 八十五万の 抑留者 七万の 死者を
 キリチエンコ博士 公表すなり
 ボンダム宣言 シベリア抑留者 早期に
 送還規定せるに 十二年延引すなり
 過ぎしこと 繰言なすも 是非もなし
 談じ論じて 後世への遺訓に

映画『あげまん』を見て

お葬式、たんぼぼ、マルサの女などの監督伊丹十三氏の映画で宮本信子・津川雅彦の好演もさることながら、百円玉四個で求めた文献？を眺めているうち結構勉強になりました。先ずアゲマンのサブ・タイトルには男にツキをもたらす女を古来人々はそれをあげまんと呼びならわしたと定義されている。

監督の言葉を借りると日本というのは、男が弱い文化で、その弱い男が強い男を演ずるので無理がくる。欠点も含めて丸ごと受け入れてくれるのがアゲマンだそうで完全な母だといっている。お互いが良縁と思って夫婦の契りを結んでも年月を経れば、妻との一体感も薄れてくるので世の男性＝旦那は新たな一体感を求めて酒を飲み、煙草を喫う、グルメ

に奔る、仕事にうちこむ、はてまた恋をする（場合によっては浮気かも）んだと和光大学教授岸田秀氏の説法。これから本番の私説で男というものは勝手気儘で厄介な性癖をもつ生まれっぱなしの赤ちゃんであるが、しかし支配されれば面白くない。どこの家庭でも奥様は亭主を憎らしいと思いながら、旦那のしでかす数々を許してあげているのだろう。どちらの奥様もアゲマンにならざるを得ないのが現状があり、かなり耐える愛の形態があるのではないか？だから契り30年の小生は、今迄のオモリに酬いるため献身的夫婦愛を演ずるべきだとの結論に・・・みちまたまさたつ

定款見直し川柳

医師会費 応能割りか 応益か

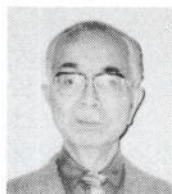
仕掛人 M作

生涯現役

従来の新入紹介に加え、今回より現在もカクシヤクとして現役を続けられている先輩の先生に御登場願うことにしました。いわば温故知新コーナです。初回は明治38年生れ羽村の坂本 保先生です。

坂本 医院

坂本 保



過日編集委員長より老齢会員の一人として履歴書のようなものを出してくれと言われたので拙文を書き御目を汚す次第です。

明治38年(1905年)(本年は90年)西多摩村(現羽村町)に生れて育ちました。中学(府立二中)卒業の年念願の旧制高等工業の受験が感冒にかかり受けられず、あまり気の進まぬまま、父が開業医であり姉のすすめもあって慶大医学部に合格、そのまま卒業(昭和5年)二年程内科医局にいて、父が老令であり財産もないので静岡の紡績会社の社医で9年程過しました。日米開戦の年(S16年)葛飾区で外科開業の親友の勧めで上京し開業医としての一步を踏み出しました。然し戦況が思わしくなくなったので故郷に逃げ帰り亡兄の家で開業の真似ごとをしているうち徴罰召集され一ヶ月を一ツ星(兵士の最下位)で柏の兵舎で過しましたが、あまり辛いこともなく(軍医の事であり初老であったためか)、教育係の兵長もよく面倒をみてくれて「戦地で会ったら、よろしく頼む」など言っていました。6月10日再召集で大島の波浮港野戦病院(と言っても木造の宿屋を利用したもの)に見習士官として勤務することになったが、薬室にはブドウ糖液とワカモト以外薬らしいものは何も無く診察しても仕方がないので朝患者(兵)の顔を見るだけで、午後は宿舎に帰って上官の中尉と私達見習士官3人で麻雀をするか散歩に出かける位が日課でした。8月15日終戦。10月2日召集解除で再び亡兄宅で開業し、25年8月現在地に小院を建て今日

に至っています。

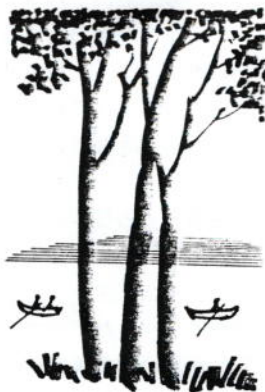
医師会には19年に入会今日に及んでいます。27年から43年まで14年間副会長の職にあり、故山田先生、故石森先生の下で主に保険関係を担当して来ました。

終戦後の保険は当地方では国保が主流であり、各町村で連合会を作り診療報酬の診査を行っており、診査委員には医師会選出の数人、福生病院長、青梅保健所長、都の技官を委嘱しておりました。支払は町村毎に行っていたので町村の財政事情で順調に支払ってもらえぬこともありました。又初期は町村が被保険の支払分を徴集していたのを窓口徴集に変更したのに対し、強く反対したのですが、いろいろの事情から条件付で現在の形になったのです。

副会長退任後は5回程監事を勤めさせて戴き以後は老令にて第一線より退きました。

尚東京都医師会の医道審議委員には40年より62年まで当医師会より出させて戴きましたが、任期中当医師会関係の事件がなかったことは幸でした。

又当医師会選出として東京都国保診療報酬審査委員を40年より62年まで勤務しましたが現在のように件数も多くなく且つ複雑なものも多くなかったので私のような者でもどうにかやって行けた次第です。



ブロックだより

福生市医師会総会と懇親会開催される

5月29日(火)に、福生市医師会総会と懇親会が、「くぼた」で22名と多くの出席を得て、盛会のうちに開催された。平成元年度事業報告、同決算、今年度予算案などが、滞りなく承認された後、懇親会に移った。程よくアルコールが行き渡ったところで、会員ひとりひとりが立ち近況報告が行なわれたが、人生論あり、経験談あり、思い出話あり、抱負あり、個性にあふれた、ふれあいのひとときであった。いつもに増して華やいだ雰囲気の中、最先輩の上田登代一先生の七つ締めで閉

会となった。二次会が盛り上がったのは言うまでもない。(玉木)



ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

クラブ紹介

絵画部

平成2年6月19日に開かれた西多摩医師会理事会に於いてテニス、写真と共に絵画同好会が承認されました。この絵画同好会の母体は杏6人展であります。この6人展は昭和58年2月のある日、ホテルポニーに同好の西多摩医師会員が集まり結成されました。会の名称をつけるにあたり、いろいろ考えたのですが、西多摩医師会絵画展ではあまりに堅すぎ、面白くなく、さりとて医者匂いがするものと考えて杏の字が選ばれました。当初は速水完一、米山秀雄、内山大、波田野洋夫、宮川栄次の諸先生に、私、稲垣壮太郎の6名でしたので、杏6人展の名ができました。第1回展は昭和58年4月12日より6日間福生の田辺画廊で開催されました。高水先生ほか多くの先生がたにご高覧頂き、大いにもりあがりました。以後、毎年1回展覧会を行ってきました。第4回展よりは、速水先生がご病気で出品なされなくなりました。

会の名も杏展となりました。第6回展より大嶽栄二先生がご参加くださっております。

今年で杏も第9回展を終え、8年もの永きにわたりました。これも第1回展よりの会長

である内山先生のご尽力と会員の諸先生の絵画への情熱の賜物とおもっております。

また、第1回展の時、栗原一郎画伯よりデッサン力の必要性を指摘され、以来、今日まで第2、第4木曜日、ヌードを含めたデッサン会が行われています。これには、一般人も加わり、大聖病院をお借りして会場としています。二四木会と称し、展覧会も行い、民間との接点になっています。杏展が西多摩医師会絵画同好会として認められたのを期に、会員一同、心新たにはりきっております。医師会員の皆様のご入会を心からお待ちしております。



福 祉 部

西多摩医師会同好会名簿

(平成2年5月現在)

ゴルフ部 (既設)

(33名)

- ◎内山 大 足立 卓三 市原 靖
- 池田 聖 今川 武 井村 進一
- 稲垣壮太郎 内田 智 馬詰良比古
- 大嶽 栄二 大河原 周 大橋 忠敏
- 大堀 洋一 川崎健一郎 小林 杏一
- 後藤 伸 笹本 隆夫 鈴木 修
- 杉本 一 玉木 一弘 高水 武夫
- 立花 米一 堤 次雄 葉山 侃
- 林 実 波田野洋夫 野村 有信
- 星野 稔 松原 貞一 宮川 栄次
- 山口 岱三 横田 卓史

テニス部 (新設)

(10名)

- ◎道又 正達 唐橋 善雄 栗原 琢磨
- 小林 杏一 堤 次雄 松原 貞一
- 真鍋 勉 百瀬真一郎 横田 卓史
- 渡辺 良友

絵画部 (新設)

(11名)

- ◎内山 大 足立 卓三 稲垣壮太郎
- 大嶽 栄二 唐橋 善雄 波田野洋夫
- 松原 貞一 真鍋 勉 宮川 栄次
- 道又 正達 米山 秀雄

囲碁部 (既設)

(6名)

- ◎佐々木 章 栗原 三省 清水章三郎
- 林 実 東 吉男 水口 嘉治

写真部 (新設)

(14名)

- ◎松原 貞一 浅野 孝 稲垣壮太郎
- 内山 大 大河原 周 鹿野 純一
- 近藤 肇 三枝 襄二 坂本 保巳
- 波田野洋夫 真鍋 勉 山田 正哉
- 米山 秀雄

麻雀部 (既設)

(8名)

- ◎今川 武 勝又 徳一 栗原 三省
- 佐々木 章 杉本 一 中村 武
- 堀田 洋夫 百瀬 政雄

(注) ◎印は部長



医師会日誌

医療機関数	172	診療所	147
		病院	25
会 員 数	307	A会員	155
		B "	152

講演会・その他

6月7日	保険整備会
13日	学術講演会
15日	法律相談
19日	生保指導立会
27日	学術講演会

会議

6月7日	理事会
11日	胃検診委員会総会
12日	正副会長経険者との懇談会
19日	理事会
20日	会報委員会

役員出張

6月4日	都立青梅看護専門学校
7日	都医社保・国保審査連絡協議会
"	都医公衆衛生委員会

氏名 関 兼英
勤務先 阿伎留病院

氏名 黒須知二
勤務先 日の出ヶ丘病院

氏名 半谷七重
勤務先 福生病院

氏名 島田 肇
勤務先 福生病院

氏名 横田昌典
勤務先 今井病院

氏名 立花 健
勤務先 青梅市立総合病院

氏名 何建 邦
勤務先 日の出ヶ丘病院

氏名 星川欣明
勤務先 青梅市立総合病院

アイウエオカキクケコサシスセソタチツテトナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨンアイウエオカキクケコサシスセソ

—— 表紙の言葉 ——

ラウターブルネンの溪谷

秋川 近藤 友好

登山史上有名なアイガー北壁の直下、登山電車を中心であるクライネンシャイデック (2,000 m) のホテルに4泊して、ベッターホルン、アイガー、ユングクラウの3山を巡る撮影旅行に参加した。ホテルの目の前にアイガーの北壁があるのだが、仲々全容を現してくれない、時々氷河が谷に崩落する雷鳴のような音が聞える。この幸運なワンカットはユングフラウ(中央左寄りの最奥に見える)を北東から展望出来る地点に行く途中の電車の中から撮影出来たものです。溪谷はラウター

ブルネンと云い、氷河が削り取ったU字形の溪谷で、右端に見える滝の落差が200m余もあるのと比較してスケールの大きさが相像出来ると思います。

撮影にはコンタックスRTSⅡにレンズは25mm、200mmに偏光フィルターを準備しました。フィルムはフジのD-50(スライド用)同じく100(カラーネガ)を持参しましたが、こんな大きな風景の所では望遠レンズは殆んど使用せず25mmレンズが主力でした。

〈次号予告〉

8月号は恒例の文芸特集です。
夏の夜の涼風として特集を組みますのでふるって御投稿下さい。 編集部

医師会学術講演会のお知らせ

- ★日時 平成2年7月12日(木)
P.M. 7:30~ 学術映画上映
P.M. 8:00~ 講演
- ★場所 西多摩医師会館講堂
- ★演題 「日常診療の中の漢方」
(不定愁訴を中心に)
- ★講師 ヨシコクリニック院長
高木嘉子先生
- ★主催 西多摩医師会
- ★後援 (株)ツムラ

法 律 相 談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禰八先生による法律相談を毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽にご相談下さい。

- ◎ 相 談 日 7月は11日(水)
 8月は 8日(水)の予定です。
 - ◎ 場 所 西多摩医師会館和室
 - ◎ 内 容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・刑事に関するどのようなものでも結構です。
 - ◎ 相 談 料 無 料(但し相談を超える場合は別途)
 - ◎ 申 込 方 法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
- (注)先生の都合で相談日を変更することもあります。

あとがきにかえて

御承知の様に、編集委員会は平成2年6月号より、編集責任者が大嶽先生より真鍋先生にバトンタッチされ、新メンバーによる会報作りがスタート致しました。「今まで以上に多くの会員の先生方に読んでいただけるような会報にする」と言う方針は変わらないと思います。私は三期(6年)編集委員を命ぜられ、今年からは、読む側に廻らせて頂くつもりでしたが、更に一期手伝う様言われた為参加する事に成りました。実際の所、書く事、まと

める事が大苦手なのですが、お荷物に成らない様努力して行くつもりです。又掲載内容では、ソフトな感覚のものでクラブ紹介の他、諸先生方の趣味の記事の項をお手伝いする事に成りました。西多摩医師会同好会も徐々に充実して来ていると思いますが、お一人で色色頑張っておられる先生の記事を御紹介していただければ、編集の仕事も、よりスムーズに進むと思います。御協力お願い申し上げます。
小林杏一



平成2年7月1日発行

発行所 (社)西多摩医師会

東京都青梅市西分3-103

TEL (0428)23-2171(代)

会報編集委員 真鍋 勉

石井好明 小机敏昭 小林杏一

田代 洋 玉木一弘 堀田洋夫

道又正達 百瀬真一郎 渡辺良友

印刷所 マスタ印刷 TEL (0428)22-3047

ハイテクノロジー検査領域へ!

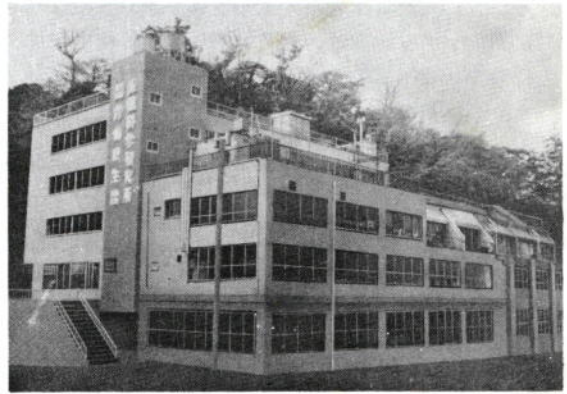
本社総合ラボは、日々進展変化する臨床検査システムに対応すべく、関東医学研究所の総力を投入し、最先端検査機器を駆使した正確な情報の抽出を目指しています。検体のお預りからデータのご報告まで、確実に迅速にお応えします。

事業内容 一般検査、血液学的検査、血清学的検査、臨床化学検査、微生物学的検査、ラジオ・アイソトープ検査、病理学的検査、集団検診などの臨床検査



臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106
電話 045 (333) 1661 (大代表)
八王子市子安町4-10-10
電話 0426 (26) 2203・2204



- 総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
- 完全オンラインシステム化を実現致しました。(データー通信システム)
- 関係医療機関 約 3,500ヶ所
- 広範囲な検査内容
 - 内分秘学検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
 - 病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査

！都川県の御得意先を毎日定期的に集配致します。御一報を御待ち致しています。